

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

小山保育園

横浜市緑区小山町 292

運営主体：社会福祉法人 山百合会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5～6 ページ
分類別評価結果	7～17 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	18～25 ページ
利用者本人調査分析	26～28 ページ
事業者コメント	29 ページ

2010年3月30日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	小山保育園（保育所）		
報告書提出日	2010年3月18日	評価に要した期間	6ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2009年8月28日～12月10日</p>	<p>自己評価票を全職員に配布し、8月28日に評価機関から第三者評価について説明を受ける。</p> <p>さらに、常勤・非常勤に分かれ、会議で説明した。</p> <p>4グループに分かれ会議を開き、一項目ずつ意見を出し合い、確認して決めていった。</p> <p>4グループの代表と園長、主任で会議を持ち、一つのものにまとめていった後、再度訂正・確認の作業をした。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2009年11月24日～12月7日</p>	<p>全園児の保護者（91家族）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 2010年1月19日 第2日 2010年1月21日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後：書類調査。園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後：各クラスリーダー保育士6名、調理師1名、看護師1名、非常勤職員1名、主任に個別に面接調査。</p> <p>その後、園長・主任・事務長に面接調査。</p> <p>最後に意見交換を行った。</p> <p>夕方以降に時間外保育・延長保育の様子を観察。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 2010年1月19日 第2日 2010年1月21日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【小山保育園】

【施設の概要】

小山保育園は、JR・市営地下鉄「中山駅」から徒歩約15分の小高い丘の上にあります。傾斜地に建てられた保育園ですが、この立地を利用したローラー滑り台やアスレチック等、数々の遊具があります。園庭にはまた、春にはタケノコが出てくる竹やぶ、秋には銀杏が山ほど取れる大イチョウ、そして古い柿の木などの実のなる木々があります。さらに、園の近くに200坪の畑を持っています。

当園は、1980年（昭和55年）に60名定員の認可保育園として開園し、現在は増築されて100名定員（0～5歳児）になっています。開園時間は、平日は7時から20時、土曜日は7時から18時までです。

運営法人の「社会福祉法人 山百合会」は当園のほか、同じ緑区に「八朔乳児保育園」、港北区に「ペガサスベビー保育園」「ペガサス新横浜保育園」「ペガサス夜間保育園」「岸根保育園」を運営していて、当園に法人の本部があります。山百合会は「女性が安心して子どもを産み育てられ、仕事と育児が両立できるような社会をつくりたい。そのような社会づくりに保育を通して貢献（支援）する」という経営理念の下、30年以上の歴史を持っています。園のしおりには、山百合会の歩みとして「その時代、時代に要請される保育の要求（産休明け・障がい児・外国籍・途中入園・延長）に積極的に取り組んできました」と記されています。

法人を立ち上げた理事長が当園の園長を兼務しています。園の保育目標は、「よく食べ、よく寝、よく遊ぶ子」「強く、たくましく、思いやりのある子」「自然の中で、のびのびと遊べる子」です。

高く評価できる点

1、子どもたちが満たされて健やかに育つ体制を整えています

園児の数に対する職員数は、市の基準より多めで、特に乳児担当と給食担当は手厚く配置され、0歳児クラスの職員には看護師も入っています。子どもたちそれぞれにとって大切な乳児期は、ゆったりと安全に見守り、一人ひとりに応じたきめ細かい対応ができる体制をとっており、また同時に、体作りの基本である給食を充実させ、食育には給食職員が保育士とともに取り組むことができる体制がまず整えられています。

職員集団は、若い職員からベテラン職員まで、さまざまな年齢構成です。その背景には「女性が安心して子どもを産み育てられ、仕事と育児が両立できるような社会をつくりたい」という法人の経営理念があります。女性の多いこの職場で、家庭の事情等で常勤が難しくなった職員については、辞めずに非常勤職員として働き続け、事情が許せば常勤に復帰する、という柔軟な対応もしています。そこで、多くの職員は辞めずに無理のない範囲で働き続け、子どもの姿のとらえ方・接し方、職員間の連携方法、園の方針などが、若い職員にも継承されていて、職員全体の質の向上につながっています。

さらに、職員の超過勤務を少なく、休憩時間や年休をとりやすくするなどの配慮もあり、職員の意欲の向上にもつながっています。昼は交代で必ず休憩時間を取りますが、その時間に職員間でさまざまなことが話し合われます。休憩室は心身を休めるばかりでなく、主任を中心とした職員の連携を高める大切な役割も果たしています。

園長・事務局長などの経営者・管理者、その理念・方針を実践する職員集団、その間のパイプ役を務める主任と現場のリーダーたち、この三者の力量が相まって、前向きで質の高い、職種・クラスを超えた連携体制が整えられています。

2、子どもたちは意欲的に園の生活を楽しくしています

0歳児クラスのと看から、子どもの気持ちはしっかりと保育士に受け止められ、やる気が育っています。各保育室では子どもたちが主役で、保育士の存在は比較的目的立ちません。保育士の大きな声が飛び交うことはなく、うるさい指示も聞かれません。保育士は子どもたちの姿を把握してて、興味を引く方法も知っています。0・1歳児クラスでも、「集まれー」と大きな声を出さなくても、楽しそうな紙芝居が始まると1人また1人と子どもたちが集まってきて、紙芝居の場面が変わるたびに歓声があがります。

子どもの年齢が高くなるほど、保育士は“影の仕掛け人(裏方)”になっていき、子どもの自主的な活動が目立ってきます。例えば4歳児クラスでは、何人もの子どもたちが「食事が終わったらコマをやるんだ」と決めていました。コマはたくさんそろえてあるので取り合いになることはありません。保育室の床にはこの時期、ビニールテープで大小さまざまな枠が作ってあり、ある子どもは大きい枠内でコマを回し、自信のある子どもは小さい枠内で上手に回します。3~4人で競い合ったりし、子どもたち同士で夢中になって遊んでいました。保育士が声をかけることもありません。午睡の準備の時間になると、子ども自らござを持ってきて敷き、保育士が布団棚に行くと、子どもたちが並んで布団を受け取りどんどん敷いていきます。敷き終わると保育士が来るまで、子どもたちだけで集まって手遊びが始まります。保育士が紙芝居を持ってくと、「待ってました！」とばかりに自分たちで紙芝居を見る体勢を整える、そんなやる気満々の子どもたちです。

第三者評価に伴う保護者アンケートでは、「子どもたちが保育園生活を楽しくしているか」という問いに対して、保護者の96%以上が「満足」「どちらかといえば満足」と答えています。

独自に取り組んでいる点

子どもたちの安全には徹底した配慮をしています

保育中「危ないー!」「ダメー!」という声は聞こえません。保育士は、子どもたちが知らず知らずのうちに安全に守られるように取り組んでいます。

保育士が遊びの「動」と「静」を上手に組み合わせてメリハリをつけているので、子どもたちは満足して落ち着いています。子どもは充足されていれば穏やかで機嫌も良く、大きなけんかも事故も少なくなります。

さらに保育士は、徹底した見守りをしています。特に乳児クラスでは子ども一人ひとりの動きを保育士がしっかり把握しています。「ワーン」と泣き声が聞こえて、初めておもちゃの取り合いに気づくのではなく、取り合っているときに既に保育士がそばにいて、子どもの気持ちを代弁してあげています。また、広場に散った子どもたち全員を保育士はとらえていて、遠くに行き過ぎた子どもがいれば近づいて、楽しい追いかけっこのようにして引き戻します。幼児クラスや早朝・夕方の混合保育では、送迎のピーク時等には保育士の数は余裕がありませんが、保育士は保護者と十分に話ができなくても、まず子どもの見守りを優先します。保護者との話は別のときにできても、子どもの見守りは今しなければならぬことだ、という意識がうかがえます。

安全に見守るための保育士同士の声のかけ合いも徹底しています。特に、職員数の比較的多い乳児クラスや、幼児でも他クラスと合同保育のときには、互いの今の役割をその都度声をかけ合って確認します。また、ごく短時間でもその場を離れるときは、必ず声に出してほかの保育士に知らせます。

散歩の際の安全指導も徹底しています。複数クラス合同の散歩のときは、年齢の大きい子どもが車道側になって手をつなぎ、道の端を歩くことがすっかり身につけています。狭い道では自転車や人が来れば全員が立ち止まって、行き過ぎるのを待ちます。また、どんなに小さい交差点でも必ず保育士が1人、道路の真ん中で両手を大きく広げ、子どもたちが通りきるまで見守ります。子どもたちは手を上げながら、列

の間が開かないようにしてサーッと渡ります。そして公園等に着くと、遊ぶ前に必ず保育士の1人がまず一回り安全点検をし、危険物がないかをチェックしています。こういった経験の積み重ねで、子どもたちは自ら身を守ることをも体で覚えていきます。

また、除去食・代替食の配膳は2重3重にチェックして、間違いが起こらない体制を作っています。このようにして、子どもたちは毎日守られて、落ち着いて園生活を送っています。

工夫が望まれる点

さらなる保護者との連携・交流が望まれます

園は、日々、全園児が対象の連絡ノート、保育士による送迎時の保護者とのコミュニケーション、ならびに、毎月発行する園だよりやクラスだよりを通して、園児の姿や園の動きを保護者に伝えています。また、個人面談、保護者懇談会や保護者アンケートを実施して、さらには保護者会の協力も得て保護者との連携・交流に取り組んでいます。

これらの結果は、利用者家族アンケートの「遊び」と「生活」について、また「子どもたちが保育園生活を楽しんでいるか」について、高い満足度として表れています。自由記入欄には、園の取り組みへの信頼・期待、保育士への感謝の記述が見られます。しかし、「保護者との連携・交流について」や「職員の対応について」のいくつかの設問については、まだそれがうかがえないところもあります。

保護者との連携・交流については、今後とも方法を工夫・検討し、取り組むことが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

【小山保育園】

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ・ 園目標「よく食べ、よく寝、よく遊ぶ子」「強く、たくましく、思いやりのある子」「自然の中で、のびのびと遊べる子」は、利用者本人（子どもたち）を尊重したものになっています。
- ・ 個人情報の取り扱いや守秘義務に関して、法人作成の「個人情報管理規定」があり、毎年、繰り返し、職員会議で確認しあっています。また、「虐待への対応マニュアル」を備えていて、職員に周知し、関係機関との連携体制も確立しています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・ 子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しています。
- ・ 子どもたちはどのクラスでも、ゆったりと落ち着いて遊んでいます。保育室内は柔軟にコーナーが作られ、子どもたちは自分の興味のあるコーナーで遊び込んでいます。
- ・ 食事では、子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしています。年齢に応じて自分でよそったり、給食を自分でお弁当として盛り付ける「お弁当給食」にするなど、自立に向けてさまざまな工夫をしています。
- ・ 地域の各公園や小学校、学童保育所へ出かけたり、年長児のお泊り会で児童野外活動施設を利用するなど、地域の文化に触れています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・ 職員会議、クラス会議等を通し、子どもの発達や状況に応じて年間指導計画の作成・評価・見直しを行っています。
- ・ 個別の目標・計画は、週1回開催のリーダー会議での話し合いを通して、子どもの発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しを行っています。
- ・ 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっています。保護者へは「園のしおり」を通してその仕組みを説明していて、第三者委員については、入園式などの際に保護者へ紹介しています。玄関に設けた意見箱、個別面談や懇談会、行事の際のアンケートなどを通して、要望や苦情を届けられる仕組みになっています。
- ・ 「保育の安全対策・事故対応マニュアル」「緊急時防災マニュアル」「災害対応マニュアル」等の各種マニュアルで、園内外での事故発生時の対応、緊急時防災組織体制などについて詳しく記述しています。これらは各種避難訓練等の具体的な取り組みを通して、全職員に周知されています。
- ・ 各種マニュアル・規程類を整備しています。

4、地域との交流・連携

- ・ 地域の子育て中の保護者に向けて、園庭開放や育児相談・育児講座などを実施しています。それらを通して、地域から施設への要望や子育て支援ニーズを把握しています。
- ・ 運動会には近隣の学童保育の子どもや住民も参加し、保護者会主催のバザーや保育園 30 周年記念フェスティバルにも多くの地域の人が参加しています。近隣の高齢者施設とも理解と交流を深めています。
- ・ 区役所・学校・福祉保健センター・地域療育センター等地域の関係機関・団体とは日常的に連携ができています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・ 組織および職員が不正・不適切な行為を行わないように、守るべき法・規範・倫理等が「倫理規定」「経営指針と職員の行動規範」の中に明文化され、職員に配布し、周知しています。
- ・ 保育園の理念や基本方針は「園のしおり」「経営指針と職員の行動規範」の中に明文化し、全職員に配布し周知を図っています。また毎年、系列6園の全職員を対象とする「合同研修会」において、理事長より理解を深めるための説明を行い、相互に確認しています。
- ・ 事業運営に関して重要な情報を、園長や法人事務局が収集・分析し、理事会、経営会議、園長会議等の場で共有するとともに、園長は、運営面での重要な改善課題については、職員に周知し、園全体の取り組みとしています。

6、職員の資質向上の促進

- ・ 職員の研修体制が確立しています。園内研修としては系列6園で構成する各種部会研修があります。また、横浜市こども青少年局や緑区が主催する外部の研修会・研究会にも、非常勤職員も含めて積極的に参加しています。
- ・ 「目標管理制度」に基づき、年度初めに個々の職員は資質向上に向けた目標を立て「目標管理シート」に取り組み、年度末に職員が園長・主任と面接し、達成度の評価を行っています。
- ・ 実習生の受け入れについてのマニュアルが整備され、園の方針や子どもへの配慮等を十分に説明しています。また、実習目的に応じた効果的な学習が行われるよう実習依頼校と連携し、実習生と相談の上、プログラムや実習予定表を作成しています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。



「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営法人である山百合会の経営理念として「女性が安心して子どもを産み育てられ、仕事と育児が両立できるような社会をつくりたい。そのような社会づくりに保育を通して貢献（支援）する。」、および経営方針「次世代を担う子どもを育てます」「常に保育の質の向上をはかります」「保護者や関係機関と連携し地域社会に貢献します」、さらに法人の保育目標「子ども達の笑顔と未来のために」や園目標「よく食べ、よく寝、よく遊ぶ子」「強く、たくましく、思いやりのある子」「自然の中で、のびのびと遊べる子」を定め、これらは利用者本人（子どもたち）を尊重したものになっています。 ・経営理念・方針および保育目標等は明文化し、全職員に配布され、理解・実践されています。 ・保育課程は、経営理念・方針および保育目標や、長年の近隣との交流、住宅地の中に位置するという周囲の環境、保護者の就業状況なども考慮して作成しています。 ・保育課程に基づき、年齢ごと（クラスごと）に年間指導計画を作成しています。また、子どもたちとの会話、子どもたち同士の会話、子どもの目など、普段の子どもへの態度・表情から、子どもの意思・要望をくみ取り、指導計画の見直しに活かしています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前クラス懇談会で、保護者と面接するとともに子どもの姿を把握するようにしています。入園までには「家庭環境調査票」「入園前健康診断書」などの書類を提出してもらい、子どもの発達状況や課題を把握しています。 ・新入園児の受け入れにあたっては、子どもの様子や保護者の就労状況に合わせて短縮保育（ならし保育）に対応し、子どもが心理的に拠り所とするタオル、ぬいぐるみなどの持ち込みの配慮も行っています。 ・また、子どもの生活の連続性の視点から、保護者との間の情報交換の手段として、全園児について連絡ノートを取り入れています。 ・職員会議を通し、子どもの発達や状況に応じて年間指導計画の作成・評価・見直しを行っています。また、指導計画の評価・改訂にあたっては、特に行事などについては保護者アンケートにより意見・感

	<p>想を聞き、反映させています。</p>
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園において、子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)へのさまざまな配慮がなされています。 ・清掃チェック表により、保育園の屋内・屋外は常に清潔に保っています。窓やドアの開閉により、通風・換気等を確保するとともに、空気清浄機を設置しています。各部屋は温度計・湿度計により温度・湿度をこまめにチェックし、気候に合わせて空気清浄機、加湿器、除湿機を使用しています。また園舎は南に面して開かれていて、陽光は十分に取り入れられています。 ・沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備を備え、清掃チェック表に基づき、設備の管理や清掃を行っています。 ・低年齢児(0~2歳児)クラスにおいては、物入れ棚の下の空間、物入れ箱と部屋の角の空間などにコーナーを設けて、小集団保育が行われるよう、保育室の使い方を工夫しています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しています。 ・個別指導計画は定期的に見直しています。また、子どもの発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しも行っています。 ・子ども一人ひとりの発達の段階に応じて、成長発達の状態を「発達記録」や「児童健康台帳」にまとめています。また、これらの記録は全職員が共有できる仕組みになっています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育をする上で特に配慮を要する子どもについても受け入れる体制をとっています。障がいのある子どもや、気になる子どもについては、特に詳細な記録をとり、職員会議やクラス会議などで話し合い、情報を共有しています。また、外部研修や、系列6園の園長会などにより、配慮を要する子どもの保育に関する最新情報を入手し、職員会議で共有して、日々の保育に活かしています。 ・障がい児保育については、保護者の同意を得て、専門機関と連携し、必要な助言・指導を得られる体制としています。障がい児に対しては、障がいの特性を考慮した個別指導計画を立てています。 ・障がい児保育については、運営法人山百合会として力を入れてきたことであり、全職員で学習して話し合える体制ができています。 ・食物アレルギーについては、保護者との密接な連携の下に対応しています。入園時に「除去食申請に対する主治医意見書」を提出してもらい、かかりつけ医師の指示を受け、適切に対応しています。 ・代替食、除去食を提供する場合は、トレーや食器について間違いの起こらないように色や形状による識別を工夫するとともに、一人分ずつ運び、複数の職員で声を出して確認しています。 ・外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切に配慮する体制をとっています。外国の文化や生活習慣、考え方の違いを認め、尊重しています。

- 6 苦情解決体制



- ・保護者からの要望・苦情に対する受付担当者は主任、解決責任者は園長と決めています。
- ・保護者が要望や苦情を訴えやすいように、第三者委員に直接苦情を申し立てられること、玄関に意見箱を設けていることを保護者に説明しています。第三者委員については、入園式などの際に保護者へ紹介しています。また、個別面談や懇談会、行事の際のアンケートなどを通して、要望や苦情を園に届けられる仕組みになっています。
- ・保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっています。保護者へは「園のしおり」を通してその仕組みを説明しています。第三者委員については、入園式などの際に保護者へ紹介しています。玄関に設けた意見箱、個別面談や懇談会、行事の際のアンケートなどを通して、要望や苦情を届けられる仕組みになっています。
- ・要望や苦情等を受けて、迅速に対応できるようにマニュアルを作成しています。園単独で、解決困難な場合には、横浜市福祉調整委員会など、外部の権利擁護機関や相談機関と連携する体制が作られています。
- ・要望や苦情の解決策は、職員会議等を通して、職員に説明・周知しています。また、「園のしおり」の中で、園や第三者委員に寄せられた苦情を公表するようにしています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 344 472 383">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="600 259 1473 645">・子どもが主体的に活動できる環境を構成しています。どのクラスも、子どもたちは、年齢に即したおもちゃを自分で取り出して遊べるようになっています。乳児では、安全面を配慮して布製のものも多く、子どもの興味や発達の具合を見ながら、おもちゃを入れ替えています。幼児では、ままごと道具やブロックなどのほか、粘土やクレヨン、折り紙などの教材も、自分で自由に持ってきて、使用しています。また、箸に興味を持つ時期には手先を使う遊びをたくさん用意したり、ひらがなに興味を示すとひらがなボードをさりげなく置いたりもしています。 <li data-bbox="600 663 1473 824">・自由に遊ぶ時間には、幼児では、1人で黙々と絵本を読んだり、積木やブロック、カルタなどで遊んだりしている子どももいれば、小集団でままごとやゲーム、こま回しなどを楽しむ子どもたちもいました。 <li data-bbox="600 842 1473 1093">・クラスごとに年間食育計画を作成し、計画的な食育をしています。園の畑があり、ジャガイモ、さつまいも、野菜等を年齢に応じて育てています。5歳児は苗を買いに行くことから始め、植え付け、水やりをし、成長を見守り、収穫します。それをクッキング保育で活用し、ナスの油炒めなども作りました。乳児クラスでも芋掘りや園庭の柿もぎ、そら豆やとうもろこしの皮むき等を取り入れています。 <li data-bbox="600 1111 1473 1227">・天気の悪くない日は毎日全クラスが散歩に出ています。近辺は自然に恵まれ、子どもたちは肌で四季を感じる山の小道や川沿いの遊歩道、近隣の畑、公園等に親しんでいます。 <li data-bbox="600 1245 1473 1451">・子どもたちはよく自然に歌を口ずさんでいます。誰からともなく歌い出すと何人かが合わせて歌ったり、また、1人で歌いながら踊ったり、という光景が保育観察中に度々見られました。保育士は必要以上に声をかけることはせず、子どもたちの自由な表現活動を尊重しています。 <li data-bbox="600 1469 1473 1630">・異年齢の子ども同士のかかわりとしては、日常的にほかのクラスと一緒に散歩に行っていて、ごく自然なかかわりができています。また、幼児は誕生会や行事の際に3、4、5歳児が同じグループになる縦割りになって遊んだり、食事をしたりしています。 <li data-bbox="600 1648 1473 1765">・子どもの体調によっては、長距離の散歩を控えたり、戸外に出るのを控えたい子どもをほかのクラスに入れてもらったり、ということもクラス間の協力体制で行っています。

- 1 保育内容[生活]



- ・食事に関しては、子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしています。年齢に応じて自分でよそったり、当番活動をしたり、また、給食を自分でお弁当として盛り付ける「お弁当給食」にしたりと、意欲を引き出すさまざまな工夫をしています。乳児では、給食職員が保育室で子どもたちの目の前でおにぎりを握って見せたりするような、食欲をそそる企画をしています。
- ・献立は旬のものを大切にしています。メニューは法人の給食部会で作成していますが、それとは別に、春には子どもたちが園庭で掘った筍を給食職員が筍ご飯や若竹汁、和え物等に調理し、秋には園庭の大イチョウの銀杏を子どもたちが集めて、吹き寄せご飯にしてもらう、というように旬の特別メニューも子どもたちは楽しんでいきます。
- ・子どもたちが食事や調理の過程に関心を持つように、年間食育計画を実行しています。年齢に応じて野菜の皮をむいたり、切ったり、給食職員も保育室に入ってお月見団子の作り方を指導して一緒に作ったりと、クッキングも経験しています。
- ・食事の際は、どのクラスでも食卓の真ん中に花を飾ったり、レースペーパーを敷いて小物を飾ったりして、雰囲気を作っています。また、七夕、クリスマス、ひな祭り等の行事食の際には、園独自のメニューを考え、テーブルごとに大皿に豪華に盛り付けてトングをつけ、一人ひとりが自分でよそうようにするなど、普段と違った雰囲気を演出しています。
- ・栄養士や調理担当者は折にふれて子どもたちの食事の様子を見に行き、姿勢の悪い子どもにアドバイスをしたりするほか、幼児クラスを回って、給食職員で作った食育紙芝居を見せています。また、パーティー形式の行事の際には、テーブルに給食職員が1人ずつ入って子どもたちと一緒に食事をします。
- ・給食は毎日保護者が通る事務室入り口に展示され、展示食のそばに「今日のポイント」として、献立作成のポイントと摂食状況をボードに書いて紹介しています。これは保護者からの希望で始まり、子どもたちも読みたがるので、わかりやすい表現で、ひらがなで書かれています。また、人気給食上位10種類のレシピを「今日のポイント」のそばに、自由にとれるように置いています。これは保護者に人気で、「作ってみた」という反応が多くあります。
- ・睡眠に関しては、乳幼児突然死症候群に対する対策として、0歳児は5分おき、1歳児は10分おきに呼吸チェックをしています。また、生後6ヶ月まではベビーセンサーを使用しています。
- ・トイレトレーニングは、「あわてず、無理せず、その子に合わせて」という方針で、保護者と連携し、個別に対応しています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [健康管理]



- ・「健康管理マニュアル」「視診マニュアル」があり、それに基づいて一人ひとりの健康管理をしています。保育士の視診のほかに、看護師が日々全クラスを回って、子どもたち全員のその日の健康状態を把握しています。
- ・健康診断は年2回、歯科健診は年1回行い、健康台帳に結果を記録しています。
- ・保育中に感染症が発症したと疑われる場合は、速やかに保護者に連絡し、受診を依頼します。保護者が迎えに来られるまで、ほかの子どもたちから離れた部屋で見守ります。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [衛生管理]



- ・「衛生管理マニュアル」「掃除マニュアル」があり、消毒方法や、各クラスやプールの衛生管理、下痢便や嘔吐物の処理方法などが詳しく記されています。特に0歳児クラスに関しては、朝夕の管理方法についても具体的に記されています。これらの見直しや変更は看護師部会から主任へ、主任から職員に伝えられます。
- ・マニュアルの内容の中で大切なものは、その都度研修を行い周知させています。例えば手洗いについて、職員の休憩室に手洗いキットと資料を置き、洗い残した部分に色が付くチェッカーで、一人ひとりに試してもらったり、という具体的な方法で行っています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・法人で作成した「保育の安全対策・事故対応マニュアル」「緊急時防災マニュアル」「災害対応マニュアル」、園独自の「散歩マニュアル」があり、園内外の安全点検ポイントや、園内外での事故発生時の対応、震災予防措置、緊急時防災組織体制などについて詳しく記されています。これらは各種避難訓練等の具体的な取り組みを通して、全職員に周知されています。
- ・子どものケガに関しては、重要な部分の場合、受診することになっています。また、転んですりむいたというような軽い怪我でも、保護者に状況を伝えるとともに、職員間の連絡ノートに記入し、全職員が把握できるようにしています。
- ・当園の外部からの出入り口は5ヶ所ありますが、緊急時を除いて1ヶ所以外は閉鎖されています。1ヶ所の出入り口も、登降園のピーク時以外はオートロックがされていて、さらに二重鍵になっています。来園者は、園内からモニターで確認できます。

- 3 人権の尊重



- ・常に、人権の尊重を意識していて、保育士が子どもをせかしたり強制したりすることは全くなく、年齢に即したわかりやすい言葉でおだやかに話しかけています。
- ・プライバシーを守れる場所としては、3歳児クラスでは小部屋があり、ほかのクラスではパーティションやアコーディオンカーテンなどを工夫して、空間を作ることができます。
- ・個人情報の取り扱いや守秘義務に関して、法人作成の「個人情報管理規定」があり、毎年繰り返し、職員会議で確認し合っています。
- ・「虐待への対応マニュアル」があり、関係機関との連携体制は確立しています。
- ・遊びや行事の役割などで性別による区別はしていません。

- 4 保護者との交流・連携



- ・保護者が保育の基本方針を理解できるように、入園説明会や懇談会、行事の際などに説明しています。全クラスで家庭との個別の連絡帳を作っていて、情報交換をしています。多くの保護者はこれを育児日誌にしているので、詳しく家庭での様子を書いています。園としてはそれも意識して丁寧に記録しています。卒園後も大事に保管している保護者も多くいるようです。
- ・保護者からの相談は、担任に限らず、園の職員の誰でもが受けています。
- ・「園だより」を毎月発行しています。そのほか「クラスだより」も毎月発行して、クラスの子どもの様子や活動内容、人気の絵本なども伝えています。クラスだよりは、保護者がほかのクラスの様子もわかるように、全クラスのを園内に掲示しています。
- ・幼児クラスは毎月の誕生会を保育参観日としていますが、そのほかの日でも、希望者は参観することができます。ほとんど全員の保護者が保育参観をしています。乳児クラスは今年度（2009年度）、2月に保育参加の日を予定しています。
- ・園の行事には父親、母親のほか、祖父母や兄弟の参加者も多く見られます。
- ・保護者会は30年の歴史を持ち、「保護者会だより」をほぼ毎月発行しています。保護者会主催の行事なども行って、園と連携して子どもたちの園生活を豊かにしています。
- ・主任は日々送迎時に全クラスを回って保護者とのコミュニケーションをとり、保護者会の役員とも日常的に連携を図っています。

評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て中の保護者に向けた地域支援事業や、地域との交流などを通して、地域から施設への要望や子育て支援ニーズを把握しています。 ・地域のニーズに応じた子育て支援サービスとして園庭開放や育児相談、一時保育・交流保育等を実施しており、安全に遊べる場所や遊具の提供を行っています。 ・育児講座は、例えば「給食試食会」などをテーマに設定し、定期的を開催しています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑区が発行している「みどりっこカレンダー」で育児相談や園庭開放の実施を知らせています。また毎月保育園の前に、育児相談や園庭開放の案内を貼り出し、地域の人たちへ直接の情報提供も行っています。また、「みどりっこまつり」(緑区内認可保育園・緑区役所主催)については、区のホームページでも情報提供を行っています。 ・育児相談は定期的に週4日(月・火・木・金曜日)を相談日とし、利用者の都合で日時の選択ができるように配慮しながら、主任が対応しています。 ・育児相談に必要な関係機関・地域の団体等として、緑区福祉保健センターこども家庭支援課・北部児童相談所、北部地域療育センターなどをリスト化しています。職員は、緊急連絡先のリストとともに情報を共有しています。 ・区役所・学校・福祉保健センター・地域療育センター等地域の関係機関・団体とは、日常的に連携ができています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の住宅や小学校に、園の行事である運動会等のポスターを掲示してもらっています。運動会には近隣の学童クラブの子どもたちや住民も参加しています。また保護者会では、昨年秋にバザーや小山保育園30周年記念フェスティバルを開催し、多くの地域の人に参加しています。 ・園の行事「七夕会」に、近隣のグループホームの方をお招きしたり、年長児が高齢者施設を訪問し「敬老の集い」に参加するなど、お互いの理解と交流を深めています。 ・地域の幼保小教育交流事業にかかわり、計画的な講演会への参加や、年長児が学校見学を行うなど、小学校との交流と連携を図っています。また、地域の小学生の見学や中学生・高校生の体験学習も受け入れています。 ・散歩の際、地域の人と会ったときは大きな声であいさつを交わしたり、手を振ったり、立ち止まって話しをすることもあります。園芸店へ出かけて、畑に植える苗を買い、育て方を教えてもらうなど、日常的に地域の人と接する機会を設け、良い交流が持たれています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の利用者が関心のある事項について、園のパンフレットやしおり、運営法人山百合会のホームページ・緑区発行「みどりっこカレンダー」等により、情報提供を行っています。 ・また、横浜市ホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」でも、保育方針や保育園の概要等の情報を提供しています。 ・園の基本方針や利用条件・サービス内容等利用希望者の問い合わせに対し、「園のしおり」やパンフレットにより説明をしています。見学は、要望があれば、随時受け入れ、保育に支障をきたさない範囲で、曜日や時間は希望者の都合に合わせ、園長・主任が対応しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実習生受け入れのためのマニュアルがそれぞれ整備しており、「しおり」「心構え」等により園の方針、子どもへの配慮等を十分に説明をしています。 ・ボランティア・実習生の受け入れについて、職員に対し基本的な考え方や方針を周知、説明しています。 ・地域の中学生や高校生の体験学習ボランティアを受け入れていて、受け入れ時の記録が整備されています。終了後は活動の振り返りを行い、反省会や感想文などの記録を残しています。 ・実習目的に応じた効果的な実習が行われるよう実習依頼校と連携し、実習生と相談の上、プログラムや実習予定表を作成しています。実習の終了時には反省会を行い、担当保育士からアドバイスがあるほか、実習生の感想を聞き、次回の実習に反映させています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の理念・基本方針を踏まえた保育が実施できるように、人材育成計画を策定し、園としての人材育成に努めています。また、目標管理制度に基づき、個々の職員の資質向上に向けた取り組みを行っています。 ・職員の研修体制が確立しています。内部研修としては系列6園で構成する各種部会研修があります。また、横浜市こども青少年局や緑区が主催する外部の研修会・研究会にも、非常勤職員も含めて積極的に参加しています。 ・非常勤職員に対しても常勤職員と同等の指導・支援体制をとって、業務にあたっては、常勤職員と非常勤職員の組み合わせを考慮するとともに、円滑なコミュニケーションが図れるよう努めています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、リーダー会議、クラス会議を通して、日々の保育について意見交換を行い、見直しと実践につなげています。 ・また、系列6園で行っている各部会での相互研修は自己研鑽の場にもなっていて、その経過は職員会議でも報告してもらい、保育スキルの向上に役立てています。 ・保育園の元園長で、現在第三者委員や地域の子育て支援にかかわっている方から、適宜、保育技術の評価・指導等を受けています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化され、本人の適性・経験・能力に応じた役割が与えられ、職員のやりがいや満足度を高めています。 ・職員会議、リーダー会議等においては、各職員が積極的に発言できるように会議運営を行っていて、職員の配置や保育の見方等、意見を出し合い見直しを行っています。 ・園長は、個人面談を通して、職員の満足度・要望などを把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織および職員が不正・不適切な行為を行わないように、守るべき法・規範・倫理等が「倫理規定」の中に明文化され、職員に周知されています。また、同法人系列園の園長会、緑区園長会、横浜市私立園長会などで入手した、他施設での不正・不適切な事例の情報は職員会議で説明し、これらの行為が行われないように啓発しています。 ・ゴミの分別、牛乳パックによる遊具・教材の製作、広告を四角に切って折り紙として使う、廃油からのプリンせっけん作り、給食の生ごみによる堆肥作りなど、ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っています。 ・環境への考え方や取り組み方法は明文化して、環境に配慮した活動を実践しています。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の理念や基本方針は「経営指針と職員の行動規範」の中に明文化し、全職員に配布し周知を図っています。保育園の理念や基本方針は、3月に系列6園で行う合同研修会において、理事長より理解を深めるための説明を行っています。 ・園長は、重要な意思決定にあたり保護者懇談会や保護者会を通して、保護者と意見交換を行っています。職員に対しては、リーダー会議を通して伝えています。 ・スーパーバイズのできる主任クラスの職員を計画的に育成するプログラムが、法人として作成されています。 ・主任は、会議や巡回などを通して、個々の職員の業務状況を把握するとともに、個々の職員の能力や経験に合わせた的確な助言や指導を行っています。また、休憩時間や会議等の機会を通して、個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるように配慮しています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、系列6園の園長会、緑区園長会、横浜市私立園長会などを通して、また、全国社会福祉施設経営者協議会の研修、「全保協ニュース」を通して、事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。また園長は、運営面での重要な改善課題については職員に周知し、園全体の取り組みとしています。 ・法人として、中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成しています。また法人として、次代の組織運営に備え、運営や保育サービスプロセスの新たな仕組みを常に検討するとともに、計画的に後継者育成にも努めています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

【小山保育園】

- 1、実施期間 2010年11月24日～12月7日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 61.5%（91枚配付、56枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...5人、1歳児クラス...11人、2歳児クラス...9人、
3歳児クラス...10人、4歳児クラス...9人、5歳児クラス...12人
同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

文中の「満足」「満足度」は、「満足」と「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

50%の保護者が、保育目標や保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えています。「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の89%が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。自由記入欄には、“説明されたと思うが、あまりよく覚えていない”という声がいくつかありました。

【問2】入園時の状況について

「保育園での1日の過ごし方についての説明」については、保護者の95%が満足しています。しかし、他の項目については、満足度が80%以下となっています。入園時は保護者にとって大変慌ただしい時期ではありますが、「入園前の園からの情報提供」、「園の目標や方針についての説明」、「費用のきまりに関する説明」などについては、保護者に十分理解されるように努めることが望まれます。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事の説明」について、84%の満足度、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」については、73%の満足度です。自由記入欄には、“行事については、曜日、時間など保護者の立場を考慮している”との声の反面、“行事が少ない”、“要望が活かされていない”などの意見がありました。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」に関する6項目のうち、5項目について90%以上の満足度です。保護者が「遊び」について満足していることがうかがえます。自由記入欄には、“担任の先生方の努力は、子どもの姿や聞く話でよく伝わってくる”“散歩や園庭での戸外遊びでは、十分に身体を動かさせていると思う”“子どもが楽しく通っているので満足。家に帰ってから、教わった歌を唄ったりしている”などの声が寄せられています。

「生活」に関する項目のうち、「給食の献立内容」「給食を楽しんでいるか」は、98%の満足度です。自由記入欄には、“給食が手作り、季節のものや行事を考慮したものですばらしい”“給食は子どもも大満足、母も満足”など、保護者から、給食・食育についての多くの感謝の言葉が見られます。「基本的な生活習慣の自立へ向けての取り組み」「体調への気配り」などについても90%前後の高い満足度です。

「保育中にあったケガに関する対応」の項目では、“ケガについてはある程度しかたがない”“小さな傷についても毎回教えてくれる”などの記述がありますが、“（ケガに関係して双方の保護者へ説明する場合は）きちんと説明して欲しい”との意見もありました。また、「昼寝を状況に応じて対応しているか」の項目では、“入学を控える年長さんへの配慮を望む”との意見が寄せられています。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設設備」については、68%の満足度です。自由記入欄には、施設設備に対していくつかの記述がありますが、“立地条件が悪いが工夫されている”“狭いような気がする”に集約できます。

「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」については、79%の満足度です。近年の治安状況を受けて、保護者は不審者対策には大きな関心を持っています。引き続き改善策を検討するとともに、実施している対策や情報連絡・提携について、保護者への十分な説明が望まれるところです。

「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」については、88%の高い満足度ですが、自由記入欄には、“感染症に関する情報はリアルタイムでお願いしたい”“もっと情報を掲示板等で知らせてほしかった”などの意見がありました。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「園だよりや掲示による情報提供」「行事の開催日や時間帯への配慮」「子どもに関する重要な情報の連絡」の項目については、90%前後の満足度ですが、「懇談会や個別面談による話し合い」「保護者からの相談事への対応」については85%前後、「送迎時の子どもの様子に関する情報交換」「残業などで迎えが遅くなる場合の対応」については、70%の満足度です。

自由記入欄には、“相談によく乗ってくれる”“送迎時に声をかけてくれる”の感謝の記述もありますが、“相談しづらい”“先生により、子どもの説明に差がある”などの意見もありました。保護者は園側とより多くの情報交換を求めているように思います。保護者との連携・交流については、引き続き工夫をしつつ取り組むことが望まれます。

【問7】職員の対応について

「子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」は95%前後の満足度である一方、「意見や要望への対応」については75%の満足度です。自由記入欄には、“とてもいい先生方で安心して子どもをお任せできる”“どの先生も笑顔で優しく対応してくれて、子どもは保育園大好き”など、先生方への感謝や好印象の記述が多く見られます。しかし、保護者の中には保育士とのコミュニケーションが上手く取れず悩んでいる記述もあります。保護者は、より一層の話しやすい雰囲気作りを望んでいるように思われます。

「アレルギーや障がいのある子どもへの配慮」については、79%の満足度ですが、これは「その他」と「無回答」が22%のためです。自由記入欄には、“除去食も別メニューで対応して下さる”と感謝の記述が見られます。

【問8】保育園を総合的に評価すると

91%の満足度です。

【問9】園への要望など

自由記入欄からは、“保護者の意見をいつも聞いてくれる”“働く親の味方は助かる”“小山保育園で本当に良かった”など、保護者の小山保育園に対する信頼、感謝などの記述が数多く見られますが、“先生ともっと気さくに話し合いたい”“もう少し教育的なものを”などの意見も見られます。保護者との意見交換・情報交流に引き続き努めることが望まれます。

まとめ

保護者は、「遊び」「生活」について、また「子どもたちが保育園生活を楽しんでいるか」について、特に高い満足度を示しています。しかし「保護者との連携・交流について」「職員の対応について」のいくつかの設問については、必ずしも満足度が高くありません。保護者との連携・交流について、今後とも取り組むことが望まれます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

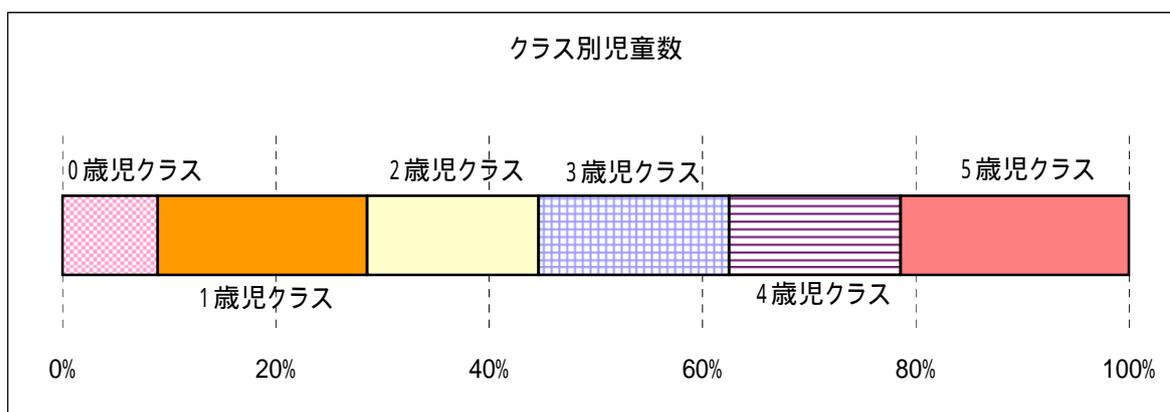
実施期間： 2010年11月24日～12月7日

回収率： 61.5% （回収56枚 / 配布91枚）

【属性】

クラス別児童数								(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答	
56	5	11	9	10	9	12	0	

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



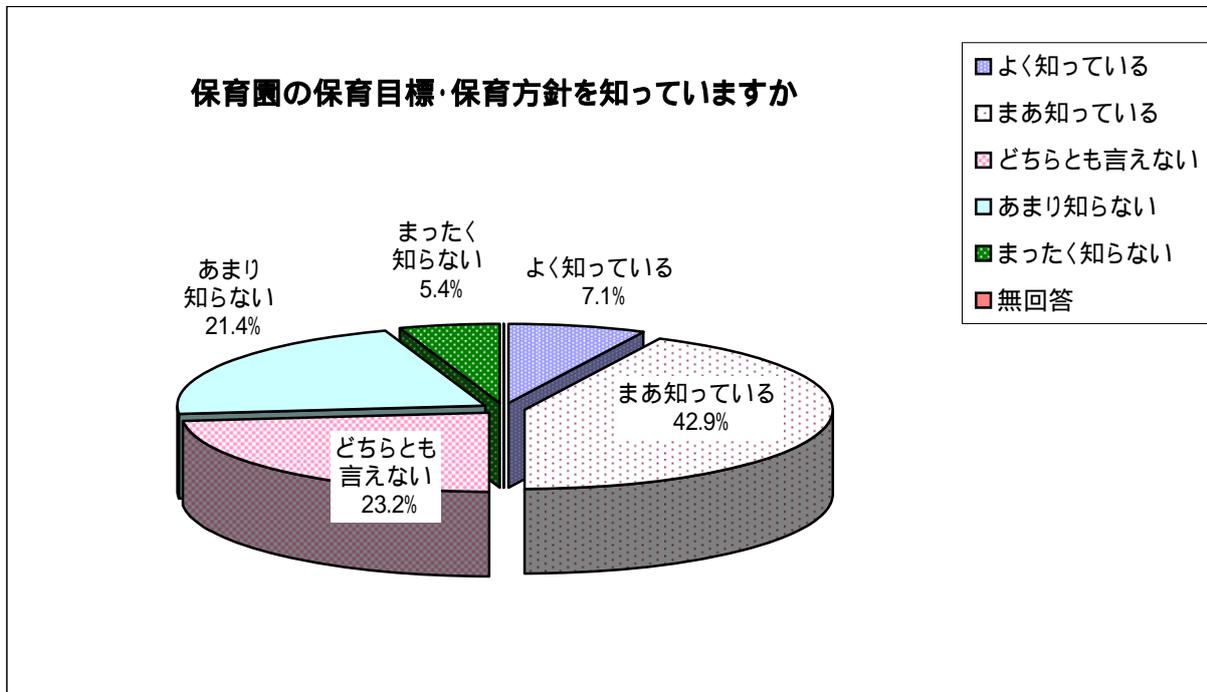
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	7.1	42.9	23.2	21.4	5.4	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

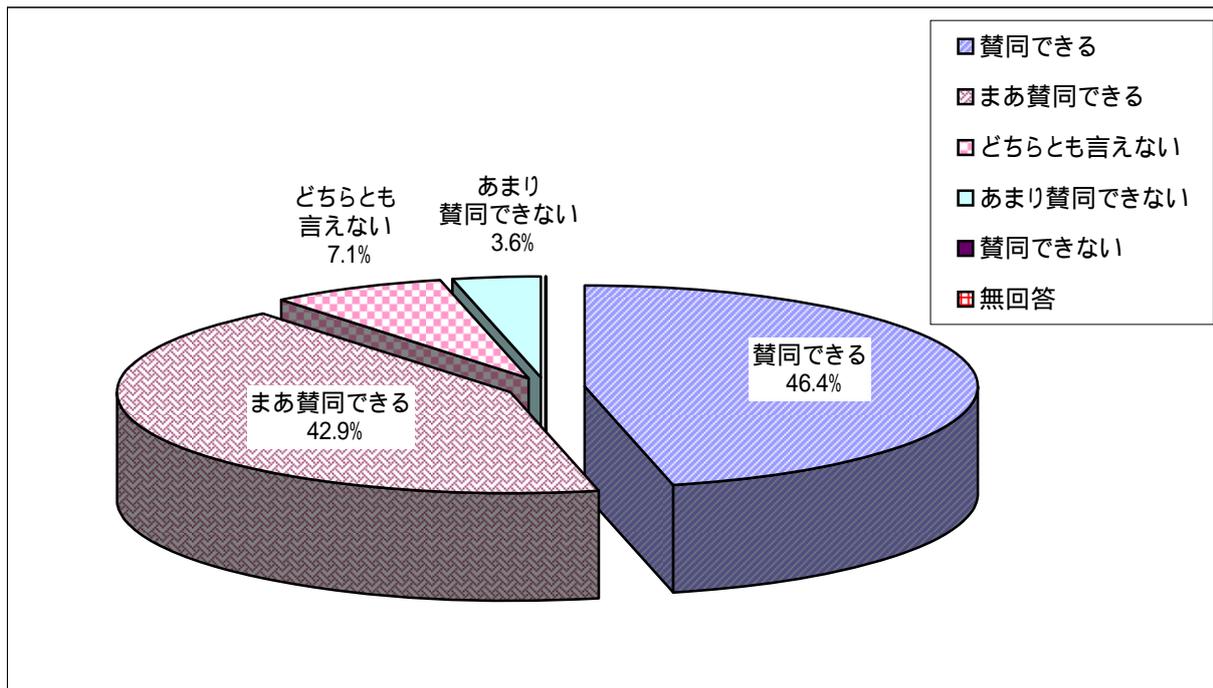


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	46.4	42.9	7.1	3.6	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

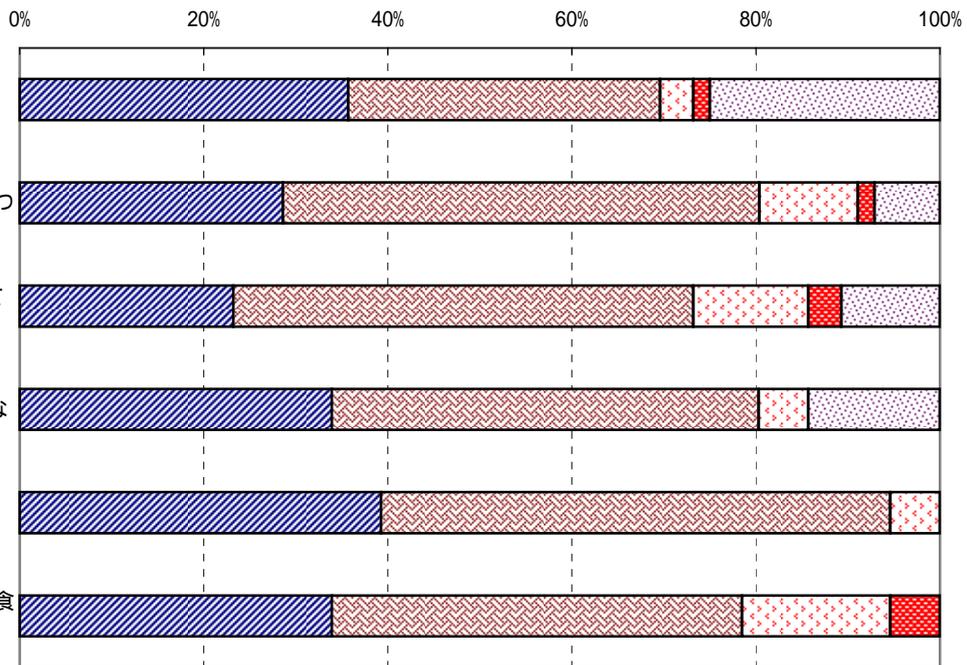
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	35.7	33.9	3.6	1.8	25.0	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	28.6	51.8	10.7	1.8	7.1	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	23.2	50.0	12.5	3.6	10.7	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	33.9	46.4	5.4	0.0	14.3	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	39.3	55.4	5.4	0.0	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	33.9	44.6	16.1	5.4	0.0	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



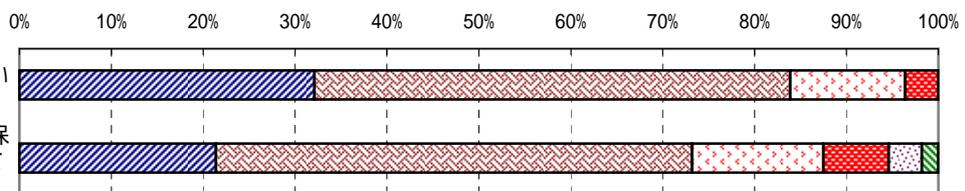
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	32.1	51.8	12.5	3.6	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	21.4	51.8	14.3	7.1	3.6	1.8	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

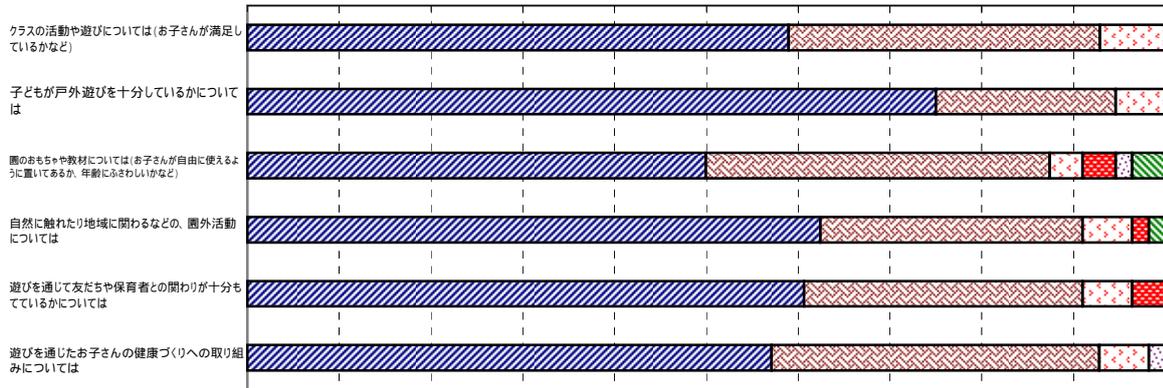
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	58.9	33.9	7.1	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	75.0	19.6	5.4	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	50.0	37.5	3.6	3.6	1.8	3.6	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	62.5	28.6	5.4	1.8	0.0	1.8	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	60.7	30.4	5.4	3.6	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	57.1	35.7	5.4	0.0	1.8	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



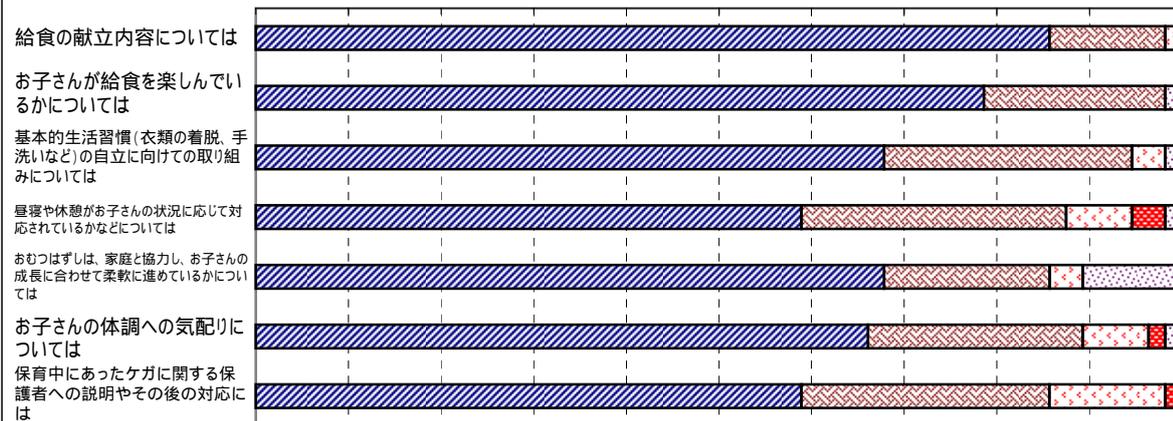
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	85.7	12.5	1.8	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	78.6	19.6	0.0	0.0	1.8	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	67.9	26.8	3.6	0.0	1.8	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	58.9	28.6	7.1	3.6	1.8	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	67.9	17.9	3.6	0.0	10.7	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	66.1	23.2	7.1	1.8	1.8	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	58.9	26.8	12.5	1.8	0.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



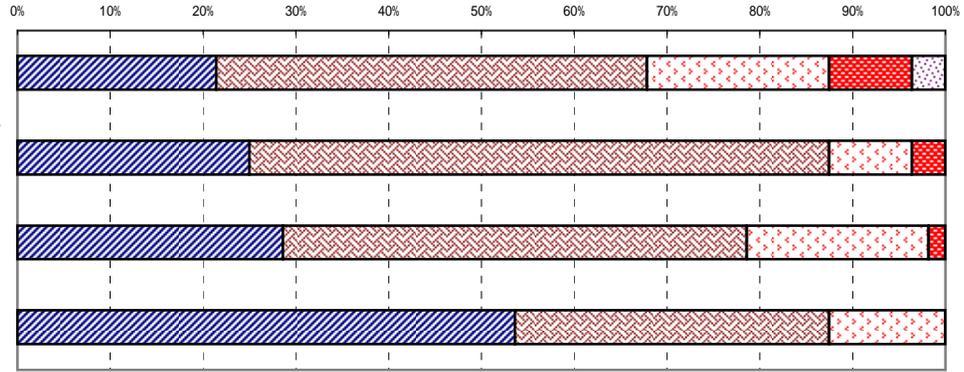
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	21.4	46.4	19.6	8.9	3.6	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	25.0	62.5	8.9	3.6	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	28.6	50.0	19.6	1.8	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	53.6	33.9	12.5	0.0	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



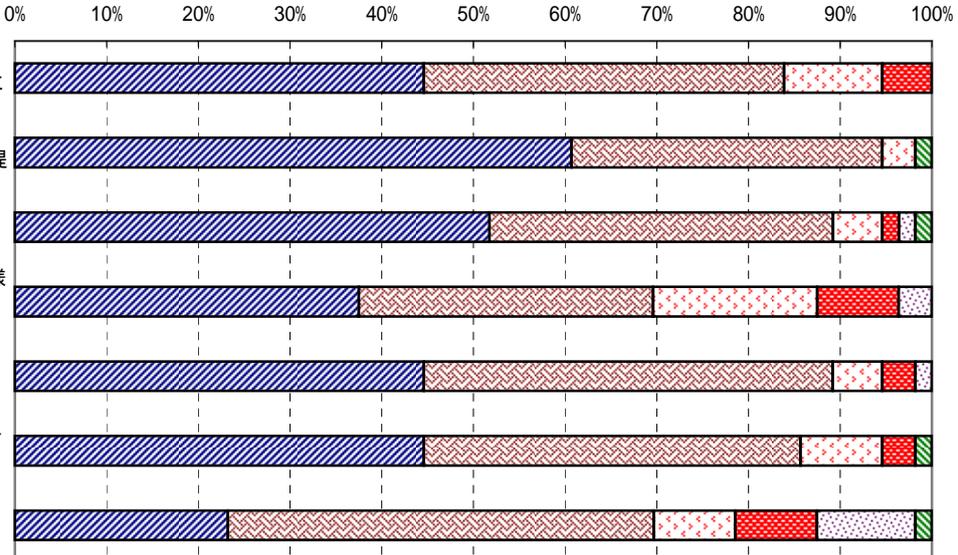
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	44.6	39.3	10.7	5.4	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	60.7	33.9	3.6	0.0	0.0	1.8	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	51.8	37.5	5.4	1.8	1.8	1.8	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	37.5	32.1	17.9	8.9	3.6	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	44.6	44.6	5.4	3.6	1.8	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	44.6	41.1	8.9	3.6	0.0	1.8	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	23.2	46.4	8.9	8.9	10.7	1.8	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

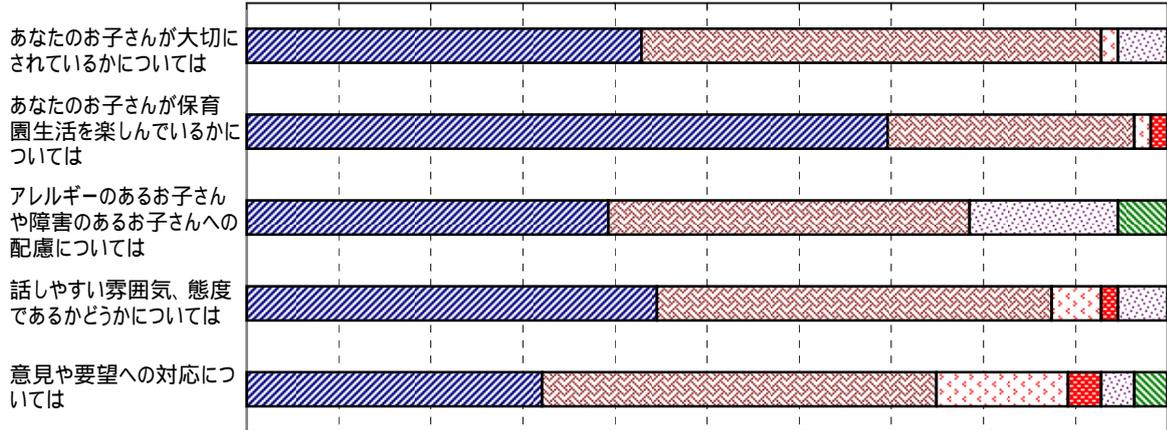
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	42.9	50.0	1.8	0.0	5.4	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	69.6	26.8	1.8	1.8	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	39.3	39.3	0.0	0.0	16.1	5.4	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	44.6	42.9	5.4	1.8	5.4	0.0	100
意見や要望への対応については	32.1	42.9	14.3	3.6	3.6	3.6	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

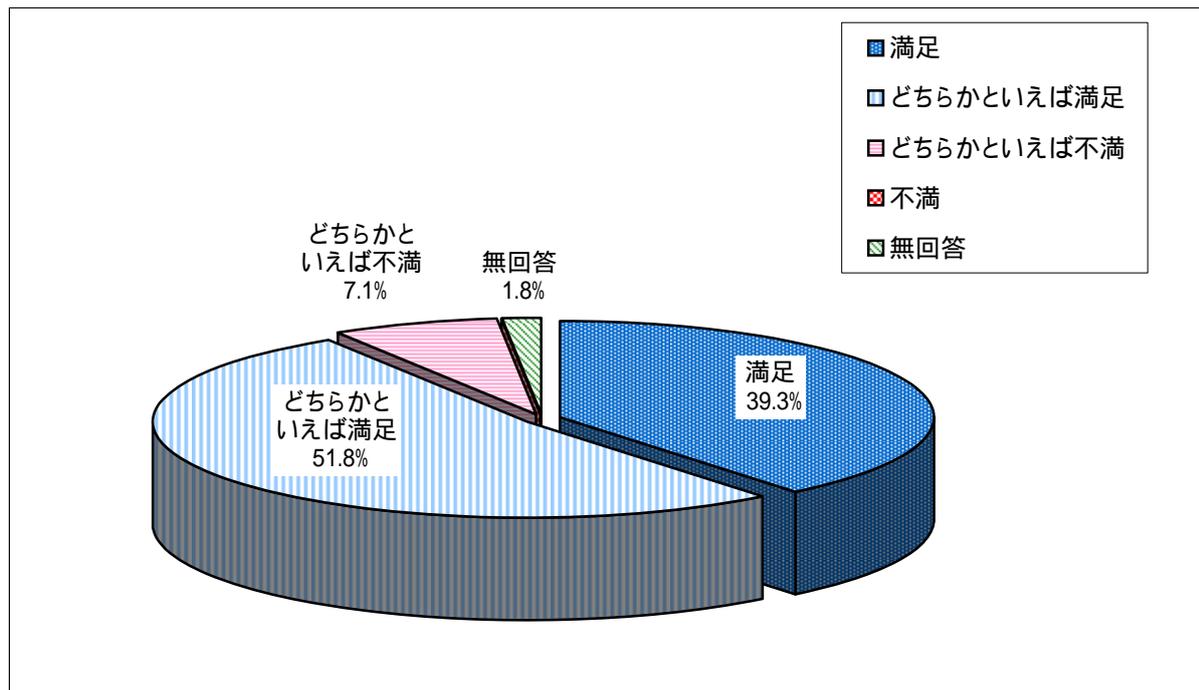
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	39.3	51.8	7.1	0.0	1.8	100



利用者（園児）本人調査 分析

【小山保育園】

観察調査 1月19日（火）9：15～12：30 1月21日（木）7：30～12：30、17：30～19：00
観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス（ひよこ小組）

この日は近くの広場に散歩に出かけました。歩きながら「これなあに？」など、言葉もよく出ます。道行く人々が親しげにあいさつしてくれます。広場に着くと、まず保育士の1人が広場を一回り安全点検し、その間、ほかの保育士が子どもたちと「道路には出ないように」というような「お約束」の確認をします。その後、保育士と一緒に砂遊びをしたり、子ども同士一列に並んで縁石を歩いたり、「キャッキョウ」と保育士の方まで声を上げて走り寄ったり、思い思いに遊び始めます。何をしてもいいか分からずにボーっとしている子どもはいません。途中でやってきた1歳児クラスの子どものと、じっくり砂遊びのやりとりをしている子どもの姿も見られます。お茶を飲んで、園に戻りました。

食事の前も思い思いに遊びます。ハイハイがそろそろできそうな子どもが、おもちゃを取ろうと熱心にずり這いを始めると、そばにいた保育士がうれしそうに励まし、別の保育士も「あっ、取れた！」と、一緒になって喜びます。片付けになり、紙芝居が始まると、自然に保育士の周りに何人が集まってきます。片付けずに自分の遊びを続ける子どもたちも、紙芝居の場面が変わるごとに「キャーキャー」「ワーワー」歓声が上がると、ついに遊びの手を止めて、紙芝居の仲間に加わっていました。

食事中は和やかで笑顔が目立ちます。皿が空になり、「ピカピカね」と褒められると自分で手をたたく子どももいます。なかなか進まない子どもには「大根も好きになるうね」「お芋もぐもぐ」などと励まします。一人の保育士が子ども一人ひとりの食事量をボードに記録していました。

1歳児クラス（ひよこ大組）

1歳児クラスは園舎の構造上、外階段を上らないと玄関に行けません。散歩に行くとき、子どもたちは自分から一列に並んで手すりをつかみ、しっかりと上っていきます。散歩の行き帰りは言葉のやりとりでにぎやかです。「先生、ゆずの木があるよ」「今日はボール遊びしたね」「お母さんに教えてあげよう」。広場いっぱいには散らばってボール遊びなどを楽しむ子どもたちを、保育士たちは互いに声をかけ合い、見守ります。子どもたちはよく動き、よくしゃべり、よく笑います。園に戻り、外階段から1階の保育室に行く途中、園庭遊びをしていた4歳児クラスの子どものと、子ども同士、自然に声をかけ合っていました。

保育室に入ると、パンツを脱いでトイレです。保育士の1人がトイレの中、1人がトイレを出たところで子どもを見守りながら、声をかけ合います。「トイレでオシッコ出ました」「パンツぬれていません」。保育士たちはどの場面でも、また、ごく短時間その場を離れるときも、必ず声をかけ合っています。

食事前のひと時、何人かで集まってぬいぐるみで遊んだり、1人離れて黙々とブロックで遊んだりしていましたが、遊んでいる中で2人が頭をぶつけてしまいました。すぐに保育士が抱きしめて、「びっくりしたね」「ゴメンネ言おうね」と、2人に話します。数分後に2人はまた一緒に遊んでいました。

このクラスには除去食の子どもが2人います。除去食ノートがあり、保育士は調理責任者と確認し合って食事のトレーを受け取ります。必ず一回に1人分だけを運び、トレーについている名前を慎重に確認して配膳していました。

2 歳児クラス（ぺんぎん組）

この日は散歩に行くので、まずジャンパーを着て靴下を履き、帽子をかぶります。自分でかなりできています。準備ができると保育士がみんなを集めて、手遊び、紙芝居となります。「赤ずきんちゃん」の紙芝居をみんな真剣なまなざしで、熱心に見て聞き入ります。続いて朝のあいさつになり、名前を呼ばれると元気な返事が返ってきます。お休みの子どもが呼ばれると「お休み！」とみんなが答えます。そして並んで手をつなぎ、主任や事務所の職員に見送られて出発します。玄関のそばに雪だるまの絵を見つけた子どもたちが、歩きながら「雪やこんこん」の歌を歌い始めました。のびのびと明るい雰囲気です。

公園ではジャンパーを脱いで、保育士と一緒にきんかん拾いや鬼ごっこ、そしてジャングルジムやはしごの登り降りに挑戦しました。ジャングルジムでは子どもの手がほかの子どもの足で踏まれないように、保育士が注意しながら見守ります。かなり上まで登れた子どもには「すごい！」と褒めます。子どもたちは口々に「先生、見て！」「先生、見て！」と声をかけます。30分以上力いっぱい体を動かし、疲れたころにお茶になり、一呼吸おいて帰る準備となります。みんなジャンパーを着ますが、ほかの子どものファスナー掛けを手伝う子どももいます。子どもたちは穏やかで、いさかや意地悪は見られませんでした。

3 歳児クラス（うさぎ組）

3 歳児クラスは、夏ごろから当番活動が始まりました。朝の集会のときに前に出てあいさつをし、散歩でお茶を飲んだ後のコップを集め、食事時にテーブルをふき、「いただきます」のあいさつをリードしていました。また、公園ではベンチカバーを保育士から受け取ってベンチに敷き、帰りには2人で端を持ち、歩み寄って2つに折り、また折り返して上手にたたんでいました。

この日は公園で、自分の作った紙飛行機を飛ばしました。始めは風にあおられてすぐクルクル回りながら落下してしまいましたが、次第に風の向きをとらえてうまく飛ばす子どもが出てきました。「飛ばないよ～」という子どもたちの訴えに、保育士は一人ひとり対応していました。

子どもたちは、着替えはほとんど自分ででき、トイレも自由に自分で行っています。毎日の生活のリズムが身についてきていて、散歩の際も素早く行動します。また、食事が終わると各自、自分の食器、お箸、椅子をそれぞれの場所に片付けて、歯磨き、着替えとスムーズに移ります。着替えの途中で歌ったり踊ったりはしゃぎすぎで取っ組み合いになったりすると、保育士がすかさず声をかけていました。

また、子どもたちはひらがなに興味を持ち始めているようで、おもちゃの棚にはカルタもあり、ほかにひらがなボードが置いてあります。子どもたちは「絵本と同じ字だ」と、字合わせをして楽しんでいました。

4 歳児クラス（りす組）

この日は5 歳児クラスと一緒に川べりの遊歩道まで歩いて行き、遊歩道で走ったり、自然の中を散策したりしました。集団で道を歩くマナーと交差点での安全確認は徹底しています。子どもたちは2人で手をつなぎ、狭い道でも5 歳児が車道側になって道の端を歩きます。道路の状況で反対の端を歩くことになると、5 歳児が車道側になるように、子どもが入れ替わって手をつなぎ直します。先頭と後ろに保育士がいて、残りの保育士が、列の間があかないように常に気を配ります。小さい交差点でも必ず保育士が1人、対向車線に両手を大きく広げて、子どもたちが手を上げて通りきるまで見守ります。そして遊歩道では心ゆくまで体を動かし、メリハリをつけていました。

園に帰ってからの、足洗い、着替え、トイレ、食事、午睡の用意等は、保育士が要所を押さえ、子どもたちが自主的に進めていました。食事は、サラダは盛り付けてありましたが、カレーとご飯は自分が残さずに食べられる量を考えて、自分でよそいます。みんなで一緒に「いただきます」をしますが、食べ終わった子どもから、さっさと片付け、寝巻に着替え、思い思いに絵本を見たり、1人であるいは何人かで集中してこま回しを楽しんだりしていました。保育士が「片付けます」と声をかけると、みんなで片付け、トイレに行く子もいれば、ごさを運んでくる子もいます。ござ敷きは当番ではなく、やりたい子どもがやっているようで、保育士も少し手伝っていました。そして保育士が布団棚に行くと、子どもたちが並んで待ち、布団

を受け取り、どんどん敷いていきます。敷き終わると、保育士が来るまで子どもたちだけで集まって手遊びが始まっていました。保育士が紙芝居を持ってくると、「待ってました！」とばかりに紙芝居を見る体勢を自分たちで整えます。やる気満々の子どもたちです。

5 歳児クラス（きりん組）

朝の短い集会の最後に、保育士が今日は3歳児クラスと一緒に学童クラブに行って遊ぶことを伝え、「しっかり面倒見てください」と言います。準備をして玄関近くの事務室前に行くと、すでに3歳児クラスが並んで待っていました。なるべく車の通らない道を選んで15分ほど歩くと学童クラブです。学童クラブの庭には木に張ったロープや、タイヤ、ネット、ハンモック型ブランコなどの仕掛けがあります。危険物チェックと注意事項の確認が終わると、子どもたちは直ちに全力疾走でかけっこです。そしてブランコに列ができ、埋め込まれたタイヤを渡り歩き、向こうからほかの子どもが来るとジャンケンで負けたほうが降ります。「鬼決め遊び」であるとか、自分たちでルールを決めた遊びがいろいろあるようでした。そのうちに3歳児クラスの子どものも混じって遊んでいました。何かいさかきがあって、5歳児が3歳児を泣かせました。一緒にいた5歳児が3歳児をなだめましたが、泣いている子どもは納得できないようで、保育士が来て、「お話ししよう」と、それぞれ言い分を言って本人同士で話し合えるように見守っていました。帰り道、園の畑を通ると立ち止まり、自分たちで苗を買ってきて植えつけた「いちご」の生育状況を観察しました。

食事のときに、調理の職員が自家製の食育紙芝居を持って、見せに来てくれました。今回は「キッチン一家のほうちょうマン」というもので、にんじん、じゃがいも、ピーマン、たまねぎなどの栄養素について、そして体のどこに効果があるかなどが語られます。演技力たっぷりの紙芝居屋さん、子どもたちは集中して聞き入っていました。

まとめ

保育士たちは上手に遊びの「動」と「静」を組み合わせ、子どもたちの大好きな絵本や紙芝居も、一日の中のさまざまな場面で効果的に取り入れています。早朝の異年齢児合同保育の際にも、クラス保育の時間が近くなると紙芝居が始まり、みんな真剣に身乗り出して見えています。終わると、落ち着いてまとまってクラスに移動していくので、気持ちを切り替える効果もあるようです。

散歩の際の道路での安全指導、行った先の公園などでの危険物チェックは、全クラスで毎回徹底しています。保育中の保育士同士の声の掛け合いも徹底しており、ちょっと席を外すときにも必ず声を出して、ほかの保育士に知らせます。また、看護師が毎日1回全クラスを回り、主任は午前と午後の2回全クラスを回り、子どもたちの様子を見るとともに、クラスの職員と連絡を取り合っています。

そのようにして、0歳児のときから職員にしっかりと見守られ、気持ちを受け止められているからでしょう、子どもたちは安心して意欲的に園生活を送っています。また、子ども同士も受け入れ合って、和やかにそして活発に遊び、生活する姿が観察されました。

事業者コメント

第三者評価を受けるにあたり「どんなことをすればいいの?」と不安な気持ちになりました。評価機関の方から、第三者評価は何のために受けるのかの説明を聞き、「日常行っている保育の見直しであり、良い点、改善すべき点に気づき、更なるステップアップをめざしましょう。」と言われ、評価というと悪い点ばかりが気になってしまいがちですが、「見直し、ステップアップ」を合言葉に取り組みました。

マニュアルの見直しでは、口頭では伝えあっていたことも明文化されていなかったことがわかり、加筆したりしました。評価項目を一つ一つ皆で話し合い、自分たちの保育の見直しをするにはとても時間がかかりましたが、話し合うことにより、職員同士、気づいたことはお互い声を掛け合うようになり、今まで自分たちのしてきた保育の再確認にもなりました。子どもたちが、毎日笑顔で過ごし、元気に、たくましく成長できるよう、保護者の方々と協力しあいながら、より良い保育園を目指していきたいと思います。

(主任保育士 人見 綾子)

第三者評価を受けることが決まった時は、「大変なこと」と構えてしまいましたが、話し合いを進めていくうちに忘れかけていたことに気づかされたり、評価項目別に分かれていると、いろいろなことを行っているんだと思ったり、今まで自分たちが行ってきたことの意味や重要性の再確認ができ、また自信となりました。これからも今まで以上に園児の発達の手助け、食育、保護者への発信等に力を入れ、日々の業務に務めていきたいと思っています。

(調理師 伊藤 美千代)

社会福祉法人山百合会小山保育園は昭和55年5月の開所から30年間、「女性が安心して子供を産み育てられ、仕事と育児が両立できる社会を作りたい、そのような社会作りに保育を通して貢献(支援)する」という経営理念のもと、保育運営に努めてきました。

現在、当法人の保育園は全体で6園になりますが、全職員が同じ目標に向かって今日まで自己研鑽を重ねております。

この度、保育園が適切に運営されているのかを客観的に評価していただくために第三者評価を受審しました。調査員の方々には、保育の中の観察を丁寧にしていただき感謝しております。

保護者のアンケートでは、「子ども達が保育園生活を楽しんでいるか」という問いでは「満足」「どちらかという満足」が90%以上でした。このことは、これからの保育の励みになりました。保護者会のご協力のお陰と思い感謝しております。

今後とも、職員達と保護者のみなさんと仲良く、信頼関係を深めていきたいと思っています。

(園長 小田 法子)

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価・改善事業ユニット

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
